

本号から2026年の配本である。21世紀も四半世紀を過ぎたが、昨年（2025年＝令和7年）は、昭和100年にあたり、戦後80年目、そして皇紀2686年にあたる。皇紀とは『古事記』や『日本書紀』によれば、神武天皇が西暦紀元前660年1月1日に櫛原宮で即位した日であり、「建国記念の日」（2月11日）は、この神話に由来しているという。ちなみに「日本」という国号が法令で定められたのは大宝律令からだという。

地理的な視点では、約2600万年前に火山活動によつて大陸から陸地が切り離され、日本列島が生まれたそうである。

神話によれば、イザナギとイザナミが高天原の神々に「国生み」を命じられ、天の沼矛で海を搔き混ぜ滴り落ちた潮が固まつて最初に「おのころ島」を生成し、次いで淡路島、四国、隱岐島、九州、奄美島、対馬、佐渡島、そして最後に本州の順に島々を創つたとされる。



鹿島神宮

宮のたけみかづののちおかみの経津主の大神は天照大神の命を受けた出雲の国へと赴き、『國譲り』の交渉を行つたのが、日本建国のはじまりとされている。

爾来、我が国は何人が天下を取るうとも、征夷大将軍に任命されるために天皇のいる『都』を訪ねてきた。公家と武家は厳然と区別され、武家は天下を取ると朝廷（天皇、帝、御門）に天下人となるための許しを得てきたのである。

これが、多くの王國と呼ばれる、あるいは呼ばれた国々が、その時点でも最も強かつた豪族が「王」として

そして関東にある茨城県の鹿島神宮の富のたけみかづののちおかみの経津主の大神は天照大神の命を受けた出雲の国へと赴き、『國譲り』の交渉を行つたのが、日本建国のはじまりとされている。

明治維新によつて日本は軍国主義に傾き、それまで明確に分けられてきた公家と武家の境が無くなり、天皇は「大元帥」として軍のトップとなつてしまつたのである。

そこから日本はどこか危うい道を辿り、軍事政権となれば、天皇陛下を戴いたまま「戦争」という歴史的犯罪を遂行し、それまで基本的に戦争や軍事行動とは無縁であったはずの朝廷（天皇、帝、御門）を戦争の拠り所にするようになり、日本史上初の第2次世界大戦における「敗戦」とGHQによる「占領」を経験することになつたのだ。

その戦後が80年を経たのだ。いまだに世界から忌まわしい戦禍の火種が尽きないのは誠に嘆かわしい状況だと言わざるを得ない。

この類稀な歴史を持つ日本だからこそ、世界の平和に貢献できることがあるはずである。

年頭に当たつて、世界に平和が訪れる事を祈りたい。

（溪）

月刊
公論

1月号 第59巻1号

令和8年1月1日発行 毎月20日発売
本体価格1,100円(税込) 送料87円

発行人 大中吉一

発行所 株式会社財界通信社

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611代 FAX.03-5379-5616

印刷所 株式会社広済堂ネクスト

取次店 日本出版販売／楽天ブックスネットワーク

●直接ご購読をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。

●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。